

遊戯機メーカーのヤマダ（本社名古屋市中川区宮脇町2の65、山田将人社長、電話052・361・1834）はこのほど、新事業としてビル風などを抑制し、風力発電もできる風力減衰装置「WINDAB（ウインダブ）」を開発した。現在、SDGs（持続可能な開発目標）対応製品として、実用化に向けた実証試験を中部国際空港（常滑市）で行っている。

（吉川英司）

# 明日を拓く経営

## 東海で頑張る中小企業

### 遊技機メーカーのヤマダ

ウインダブは、高さ約1・5㍎、幅約70㍎のパネルの中に、小型発電機付きのパイプ状風車を6本並べた構造となっている。産学共同の風洞実験では、風車が受けた風を平均40%ほど減衰し、風車1本当たりの発電量は毎時7㍎と確認されている。

発電した電力で風車の回転を制御し、暴風時の過回転や破損を防ぐことができる。回転制御で余った電力はバッテリーに蓄えて、緊急時の補助電力に利用できる。

当初は高層ビル下の強風

## ビル風など抑制にSDGs対応狙う



パチンコ・スロットの試作機と山田社長

を軽減できる建材として開発したが、橋や高速道路、鉄道ホームなどへの提案も検討している。

中部国際空港では3月6日から、第2ターミナル入り口のバルコニー部分に、20枚のパネルを設置し、実

# 風力減衰・発電装置を開発



中部国際空港第2ターミナルでの実証テスト

際の実験を検証している。山田社長は「実験上のデータだけでなく、人が感じる効果や騒音も確かめたい」と狙いを話す。

この取り組みは、名古屋市内は、各企業による中小企業の先進技術と実証フィールド提供者のマッチング事業「ハッチ・ミーツ」に採択されている」と話す。

同社の売上高は約100億円（2022年3月期）